

自己評価及び外部評価結果

[事業所概要(事業所記入)]

事業所番号	0172901217		
法人名	有限会社 グループホーム「東光」		
事業所名	グループホーム「東光」A棟		
所在地	旭川市東光10条1丁目1番8号		
自己評価作成日	平成24年9月	評価結果市町村受理日	平成24年11月8日

[事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)]

<p>・ホームの理念「感謝」「敬意」を常に念頭におき、又個人の理念をも意識しながら日々の対応により、より一層の追求を行う気持ちを継続し向上させている。</p> <p>・ラジオ体操・ホール内歩行を毎日の習慣として実行している。その際音楽をかけながら歩行しています。</p> <p>・食事前の手洗い・うがい・嚥下体操を実行、継続している。</p>

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901217-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

[評価機関概要(評価機関記入)]

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年11月5日

[外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)]

<p><身体機能の維持・向上> 一人ひとりの力を活かしながら、ラジオ体操や歩行訓練、畑作業や花壇の草むしり、日光浴や散歩、やる気が出るようにポイント制の導入で身体機能の維持・向上に努めている。また、食前のうがいや手洗い、嚥下体操を継続的に実施している。</p> <p><職員の段階に応じた研修の機会の確保> 一人ひとりの職員のケアの実際と力量を把握しながら外部講師を招聘して、感染症予防対策や認知症ケアに対する実際等の内部研修会の開催や外部研修会の参加を奨励している。また、身体拘束廃止や高齢者虐待防止について、研修会やミーティングを通じて、具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。</p>
--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、玄関から見やすい所に提示しており外部にも知らせています。また個人の理念を持ち張りだす事により職員の意識を高めています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、その達成の為に職員一人ひとりの目標を掲げ、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の散歩をして庭などを見せて頂き交流を図っている夏祭りの際には案内を出し参加をして頂いています。	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう「夏祭り」を開催し、回覧板で近隣住民へ参加を呼びかけたり、ボランティアの受け入れ等で地域の人々との交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会議を活用し町内会長、民生委員の方々に普段の施設内での様子を見て頂いたり認知症の理解を深めて頂いています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進委員会を行っている。避難訓練の参加や施設行事の参加をして頂いています。	運営推進会議は年6回を目安に開催され、地域の高齢者の現状や事業所の行事開催等具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に地域包括支援センターの方々に参加してくれており情報交換等行っている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないで介護が、出来る方法を日々考え可能な限り解放感を保つよう努力している。会議やミーティングを活用し職員の理解と知識向上を図っている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止委員会を通じて正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが自覚し、虐待を見過ごす事がないよう注意を払っている。虐待と思われるケースがあった場合、直ちに事実確認を行い改善防止に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現段階では対象になる利用者がいないが、必要に応じて各関係機関と連絡をとり最善の判断を心掛ける。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容については、契約書、重要事項説明書等に十分に時間をとり、丁寧に説明している。また不明な点が出てきた場合はいつでも質問を受け答えようとしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者の意見や要望は、管理者、職員が共有し反映出来るように支援している。重要事項説明書や施設の見やすい所に苦情相談窓口を提示したり玄関先に意見箱を設けている。	毎月発行されている「東光だより」で、心身の状況や食事・水分摂取状況、施設行事の参加や医療受診状況等詳細に家族に報告されている。また、家族等の来訪も多く意見や要望等を言い表せる機会を設け、職員間で話し合い、そこでの意見等を運営に反映している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング、ユニットごとの連絡ノート、月一回の会議等で意見や情報交換を行い常日頃から意見や提案に耳を傾けるよう対応をしている。	連絡ノートの活用や毎月のミーティング、カンファレンスで意見や要望、提案を聞く機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に必要な休みが取れるように配慮をしている。資格取得には、手当てをつけ働きやすい職場を作れるよう努めている。可能な限り給料、手当てについて見直しを行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修は、受講出来るよう配慮している。又施設外の研修は希望者をつのり参加出来る機会を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの研修会に参加し情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴を聞き可能な限りその人らしい生活が出来るよう心がけている環境の変化に伴い不穏状態が出ないように十分に気を配り不安や要望に耳を傾け安心して生活出来るよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談とアセスメントを十分に行い本人、家族の意見要望を聞き信頼関係を築けるよう話し合いをする。入居後も家族が来所した際家族の思い要望を聞きよい関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の特徴や家族の利用者に対する思いを入居前や入居当初から良く聞き対応するように努めている。他のサービスが適していると判断される場合は情報を提供している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添うという気持ちで取り組んでいる。個人個人の経験を引き出しながら共に過ごしお手伝いや遊びを通じて信頼関係を築けるように努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問も多く家族と共に外出したり又は外泊もします。家族には常に利用者の状況報告をし、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の訪問も多く、友人、知人の訪問もある。外泊、買い物、美容室、かかりつけの病院等本人が大切にしていた馴染みの場所を入居してからも継続できるよう努めている。	家族会と一緒に畑での野菜づくりや夏祭りの開催で地元の人々との交流、音楽行進等の地域の行事参加を通じて馴染みの人との交流や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で会話やレク、作業等一緒に行える様な環境を作っている。日常生活でも利用者同士声を掛け合ったり手を貸し合っている場面も多く見られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族等から相談等があれば対応している。又長期入院となられた方については、面会などに行き本人や家族の方の支援に努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は担当制であり利用者一人ひとりと深く関わっているので本人が何を望んでいるのか把握している。本人の意思確認が困難な場合は、家族に相談したり日常会話から言葉をみつける。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握にセンター方式を活用し、職員間でその情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族関係者から情報を収集し出来る限り入居前の生活空間に近づくよう馴染みの家具を使用している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に一日の経過記録を作成し、毎日のバイタルチェックを行い、職員が把握出来るようにしている。看護師を中心にその日にあったケアをしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の希望と実際の本人の様子を照らし合わせ、現状に即した具体的な介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や思いを反映し、カンファレンス、モニタリングを通じて職員の意見を反映して現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の個人経過記録を作成したり、職員間で連絡帳を作り常に情報交換をして実践や介護計画に生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに合わせた対応が出来るよう職員、家族間にて随時話し合いを行っている。状況変化があれば柔軟な支援が出来るよう相談に応じている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の心理状態を把握しながら近隣のお庭を散策したりドライブしながらお花を見たり季節に合った豊かな暮らしを楽しむように取り組んでいる。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長年利用されている病院に通院している。医療連携を結んでいる病院の医師、看護師に相談し適切な医療を受けられるように支援している。	医師の往診や常勤の看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、いつもと様子が違うなど気がつきがあればすぐに看護師と相談、連絡、報告し指示を仰ぎ受診等適切な対応を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、面会にて看護師を通し状況把握に努め体力の低下、認知症状の悪化等想定し退院による体制を職員で話合っている。家族任せではなく連絡を取り相談しながら対応している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態の変化に伴い援助内容等家族にはそのつど相談をし理解を頂いています。終末期のあり方についてはご本人、家族と話し合いを行い方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網で速やかに職員の要請が出来るようになっていました。又看護師と共にマニュアルを基に話し合っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が中心となり年2回の消防訓練を行っている。その際町内会長、民生委員と共に消防訓練を行い地域との協力体制も築いている。	地域の人達が参加して年2回火災避難訓練を実施し、緊急時の一時避難場所も確保している。また、消火器等の使用訓練も実施している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保には十分配慮している。又個々に合わせた言葉掛けをしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように内部研修で周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせた言葉掛けを行いながら自己決定出来るように支援しています。又職員の誘導、押し付けることのない様に支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れはありますが一人ひとりの体調、気分に配慮し常にその人らしい暮らしが出来ることを念頭に支援している本人のペースを大切に考え自由な雰囲気でも過ごしていただけるように支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人に合った衣服を選び、季節感が出るように支援し訪問理容を利用してる人も好みに合わせて仕上げてくれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の作成時利用者の希望も反映出来るように心掛けている、又季節の食材を取り入れながら栄養バランスも考えています。準備、後片付けも可能な方にはお手伝いを御願ひしています。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や後片付けをしている。また、栄養バランスや摂取量を把握している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分食事摂取量を記載し、日々の状況把握できるようにしている。1日の水分量を確保する為好みの物で工夫し対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、その方に合わせた声掛け、一部介助を行っている義歯の汚れは、洗浄剤を使用して清潔保持している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に心がけている。また可能な限り自力でトイレまで往復出来るように支援している。	一人ひとりの力やパターンを排泄チェックで把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にてリズムを把握している。野菜や食物繊維の多い食材を使用したり、ヤクルト、ヨーグルト等で自然な排便を促す、又毎日の歩行訓練も実践している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は設けているが、必ず本人に確認をし一人ひとりの希望に合わせている。体調によっては、シャワー欲にしたり清拭にしたり個別の対応を心掛けている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回を目安に支援している。また、拒否の強い利用者にも柔軟に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠に繋がるよう起床時間、就寝時間、ラジオ体操、食事レクリエーション、入浴等、生活のリズムを大切にしながらその方に合わせたケアをしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は、個人ファイルに綴ってあり新しい薬が処方された際には常に「引継ぎ帳」に記載し全職員に把握出来る様になっている。又薬に関しては看護師が中心になって管理している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付け、お膳拭き、テーブル拭き、洗濯たたみ、花壇、家庭菜園で出来ることを見つけお手伝いを提供し張りのある日々を過ごせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム前で日光浴、畑、花壇の草むしり、収穫をも行っています。行きたい場所等に外出支援を行っている。	散歩や外気浴、トマトや茄子、ジャガイモなどの野菜作りや収穫等楽しみごとになっている。また、一人ひとりの力を活かしながら、ラジオ体操や歩行訓練、花壇の草むしり、日光浴や散歩等戸外に出かけられるように支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談させて頂きながら決めさせて頂いています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があった時には支援させて頂いています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節が理解されるようにディスプレイさせて頂いています。又共用空間の光は自然光と照明で調整し居心地良く過ごせるように工夫している。	共用の空間では、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、リビングには一人になったり、談笑ができるように椅子やソファが配置され、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気心の合った入居者様がお茶を飲みながら雑談されたり一人ひとりが落ち着かれる場所を確保している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具等を持って来られておりご本人様も居心地良く安心され過ごせるような工夫をしている。	居室には、使い慣れた家具や寝具、家電製品や家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して生活出来るように廊下、浴室には手すりを設置して安全確保している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	43	排泄の自立支援について、弄便される入居者様についての対応。	その方の排泄パターンを把握する。	認知進行に伴い医師との連絡をしながら職員の係わり方を考えていく事。また可能な限りトイレ介助させて頂く。その方の居場所確認の徹底。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901217		
法人名	有限会社 グループホーム「東光」		
事業所名	グループホーム「東光」 B棟		
所在地	旭川市東光10条1丁目1番8号		
自己評価作成日	平成24年10月	評価結果市町村受理日	平成24年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「感謝と敬意」を理念に日々向上していけるよう努力に努めている。

ご家族様と密に連絡をとり、ご本人様・ご家族様の要望に添った介護ができるように努めている。

健康維持の為、ラジオ体操・嚙下体操・ホール内・外の散歩を継続している。

入居者様と向き合い、個々に添ったケアに努めている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901217-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年11月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に明確に掲示し、事業所理念に基づいた業務を行えるべく日々努力、個々の理念の共有も併用して意識を向上させている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生員、町内の方との交流、情報交換に努めており、日常においても協力、支援を得られているがより一層の努力を要する。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人施設として認識していただけてはいるものの、「認知症」への理解とはつながりが弱く、改善すべき点はある。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時に当所の現状報告、問題点の相談、他施設又は地域の情報収集により、当所の改善、サービス向上にむけ、意見交換を行っている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を定期的に行い、地域包括支援センター員に参加いただき、相談、情報交換等を行っている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期会議時「身体拘束」を議題に提示、介護員全員にて共有の認識を持ち、拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	各自にて学び得た内容を定期会議時に発表、検討を行い、正しい知識を共有し防止に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在に至るまで対象になる入居者様がいなく、積極的に学ぶ機会を設けておらず、今後の課題となっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書にそって、できるだけ詳細にご説明をさせていただき、納得いただいた上、署名、押印いただく。口頭質問時には明確にご返答できるように努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設長、管理者のいずれが在社しており、直接、承る環境を作っている。又、職員経由の意見、要望には、迅速に対応する事に努め、反映できるよう柔軟な考えを持つ。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ノートにて、制約なく、意見、質問、問題、疑問等を提示。内容により、個別、職員間と必要に応じて対応。反映できるよう努力している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得による資格給。 有休利用。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・講習の案内提示。希望があれば講習日に合わせての時間調整等を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、行われていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様より、入居者様の性格、生活暦等をお聞きし、話題提供によりご本人様の言動、表情に注意をはらい、不安要因を見だし、解決に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の現在、困っている事、不安な事、今後に向けての心配事に傾聴し、具体的問題にご納得いただけるまで話し合い、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、入居者様の1番の問題点の相違があるのであれば、そこから折り合いがつくよう客観的に援助させていただける事にご理解いただき、さらに、共有にむけてサービス対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護されているという、思いにならないように、言葉使い、行動に気を配る。特別な事ではない事と介護員自身も自覚する。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に定期的に担当職員より手紙郵送、入居者様の暮らしぶりを詳細に記載、ご報告させていただいている。特変時にはその都度、お電話させていただき、ご報告させていただいている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人の来所も頻繁にあり、継続して頂ける様な雰囲気、環境作りに努めている。又、外出、外泊もしていただき、馴染みの場所があることに安心していただき、今後も穏やかに生活できるよう、支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は自主的にホールにて経過されており、入居者様同士、介護員を交えて等の雑談、情報交換、相談、趣味作品制作、調理の下準備等を行っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後であっても、必要に応じ、相談、支援に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの現在の生活リズムを把握し、暮らしの中での希望、心配事に向き合い、信頼関係を築けるよう取り組んでいる。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、サービス利用内容から情報を収集。ご本人様より、日常会話にて情報を提供していただく。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様本意の生活経過を尊重、特変に注意し、現状維持に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議実施、ケアマネ、管理者を経由にご家族様、ご本人様と共に、意見交換、納得いただける内容の介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバイタルチェック・食事・水分の摂取量、排尿・排便回数等を個人経過表に記録、体調・表情・行動も詳細に記録。情報共有により、見直しに活かされている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に支援・サービスできるよう取り組んでいく事に努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力してはいるものの、現状では希薄であり、今後の課題となっている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ希望される医師、病院を入所後も継続されている。又、連携病院にての往診も可能であり、特変時の対応、指示を受けることができる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員より、事業所看護師に詳細に報告。同時に、連携医療看護師と連絡を取り、迅速な対応を行っている。又、訪問により、定期健康チェックを実施している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院経過を定期的にご家族様よりお聞きし、ご本人様、ご家族様の相談に努めている。許可されれば、定期面会も実施している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の意向を尊重し、担当医師の意見、相談を重ねながらご本人様にとっての最良の選択を実施。医療機関との連携強化、介護員間での共有・協力体制の強化。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、定期会議時に救急訓練の依頼、実施。応急処置・人口マッサージ・AED使用方法の指導を受けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回、避難訓練を行っている。非常時の際の連絡網に連絡を取り合う。近隣より非難場所を提供していただき、協力を得る。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、対応。個人情報の取り扱いには厳重に行う。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々にご自分の思いや、希望を表せるような言葉かけ、環境を作るよう心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、そのリズムを尊重、その人らしく、心地よく生活できるように支援する事に努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容による、整髪・毛染め・顔剃りを定期的に依頼・実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房がホール内にあり、料理の香り、調理工程等がわかり、食に興味を持っていただける。一緒に食事を取ることで、好み、嚥下状態を把握できる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた、食事量・食物形態・減塩をできる範囲ではあるが、毎食努力している。水分不足にならぬよう、声かけ、介助を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯・自歯洗浄の声かけ見守り・全介助にて清潔を維持している。異常が確認されれば歯科医に相談・往診・受診している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄記録により、リズムの把握。声かけにてのトイレ誘導。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足に注意している。野菜中心の食事提供。ラジオ体操・ホール内・外での歩行にて、適度な運動を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、希望や状況に合わせて、いつでも入浴できるよう、準備している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調・習慣にそって休息していただいているが、昼夜逆転にならぬよう気を配っている。寝具の清潔保持に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師による薬剤管理。処方薬の介護員全員の共有・理解の確認。服薬前の声だし確認にて誤薬防止に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自室での閉じこもりを防止し、その人ができる事を提供し、「やりがい」を持っていただけるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や個々の体調に合わせて買い物・散歩等の支援は行われているが、普段行けないような場所への外出は時間調整、その方との体調等がかみ合わず、容易ではなくなっている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との相談の上、条件があれば、支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されれば、その方のご希望に添えるよう支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清潔保持、展示壁での作品提示でも、季節感を感じていただく。畑での作業・収穫も同様季節を感じていただく。適温での生活。調理中の香りにて生活感を感じていただくように努めている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同テーブル・テレビ前ソファ設置にて個々にて自由に過ごせる空間をできる範囲で工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔保持に努めている。ご本人様のなじみの物を活かし、違和感なく生活していただけるようご自分の部屋を作っていただけのように支援・工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常動作を安全に行える環境づくり。その人らしく穏やかに生活できる支援に努力している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	老人施設としての認識はしていただけるも、「認知症」への理解とはつながりが弱い。	事業所関係者、地域包括支援センター員、民生員に相談、地域での理解を求めるに不可欠なものを検討していく。	施設の開放。交流の場に意欲的に参加する。情報収集から始める。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。